



令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【鹿児島県】

学校名【南種子町立長谷小学校】

1 実践テーマ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年（全学年） 対象人数(1年5人 2年4人 3年4人 4年4人 5年7人 6年4人) 保護者（50人）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（長谷フェスティバル） ③ その他（総合・学活での講話） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ 本年度実施されるオリンピック・パラリンピックについての情報に触れたり、視聴したりすることで興味をもったことを調べ、理解を深めると共に、その成果を多くの人に発信することができる。 ○ 上記の活動を通して、オリンピック・パラリンピックのもつ意義について理解を深めることができる。
5 取組内容	1 オリンピック・パラリンピックについての紹介 (全校朝会の講話等) 2 オリンピック・パラリンピックコーナーの設置  

3 学校便り等による事業の紹介

フロンティアスピリッツ

あいさついっぱい 花いっぱい やる気みなぎる 長谷小学校

令和3年度
長谷小便り
6月号

オリンピックの精神

校長 原口 克彦

私は、東京2020オリンピック・パラリンピックをとっても楽しみにしています。と言うのも、これまで開催されたオリンピック・パラリンピックからたくさんの感動をもらったからです。では何が私を感動させるのか。学生の頃は、単純にメダルの色や数、大会の華やかさに心を奪われていました。ところが、1984年ロサンゼルスオリンピックの女子マラソン競技で、静止を促す係員に見守られて、脱水症状でふらふらになりながらもゴールするスイスのアンデルセン選手の姿を見たとき、考えが大きく変わりました。単純に選手それぞれの思いや努力、世界という舞台上で懸命に競い合う姿に心動かされるようになったのです。

先日の全校朝会で、急性リンパ性白血病と闘い回復し、オリンピック出場が内定した競泳の池江瑠花選手を紹介しながら、オリンピックの精神について話をしました。19世紀末、古代ギリシアで4年に1度行われていたオリンピアの大会を参考に、フランスのクーベルタン氏が「スポーツを楽しみ、スポーツを通して体と心をきたえ、世界の様々な国の人々と交流し、平和な社会を築いていこう」と呼びかけたのが近代オリンピックの始まりと言われています。そして、身体障害者の世界最高峰の大会であるパラリンピックにもこの考えが生かされています。この夏、子どもたちにはそのことを理解した上で、東京2020オリンピック・パラリンピックを応援して欲しいのです。

オリンピックの精神を表す「参加することに意義がある」という有名な言葉がありますが、私には「スポーツを楽しみ、スポーツを通して・・・」その先が大切なんですと問いかけられているような気がしてなりません。今後、校内水泳発表会、町の水泳記録会、運動会等において、オリンピックの精神で全力を尽くす長谷っ子の姿に、私はきっと感動させられることでしょう。楽しみにしています。

ところで、長谷小学校は、今年度「オリンピック・パラリンピック教育推進校」に選ばれました。オリンピック・パラリンピックについて学ぶことを通じて、スポーツ好きで、国際的な広い視野をもった長谷っ子の育成に努めてまいります。



オリンピック・パラリンピック教育推進校について

スポーツ庁が主催する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」により、種子島では小学校2校、中学校1校が指定されました。

政府の基本方針に明記された「大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する」という趣旨に基づいています。

※ ホームページ・学級通信・PTA・学校評議員会等での紹介も実施した。

4 総合的な学習の時間における課題解決学習

【5・6年児童の研究課題】

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ①障害者について | ②古代オリンピックについて |
| ③オリパラの価値について | ④パラ水泳について |
| ⑤バレーボールの歴史について | ⑥ボランテアについて |
| ⑦オリンピックの意義とオリパラの歴史 | ⑧日本の伝統や文化について |
| ⑨世界記録 | ⑩オリンピックのサーフィンについて |
| ⑪パラ柔道について | |

5 長谷フェスティバルでの発表

5・6年児童が作成した資料を基にプレゼンを実施し、他学年や保護者に向けて発表した。



6 パラリンピック選手との交流（1月26日実施）

車椅子バスケットボール日本代表

（東京パラリンピック 網本麻里氏）

講話は講師から車椅子バスケットボールとの出会いについての紹介と本格的にバスケットボール競技を始めてからの様子について紹介があった。質疑応答では全校児童の半数以上から質問があり、それぞれに答えてくださった。



6 主な成果

○ 児童の感想から(原文掲載)

- これからは困っている障害者を見つけたらその人に合った手助けができたと思う。
- オリンピックもマークには意味がある。オリ・パラも大きな意義の元で行っている。一つ一つの行動に意味をもって生活したい。
- バレーボールの競技の歴史がよく分かった。これからバレーボールの競技を見るときの見方が変わると思った。
- ボランティアの人が見えないところでたくさんの仕事をしていることを初めて知った。ボランティアの仕事もたくさんあり、みんなで協力していることが分かった。大きな大会ではいろんな役割があり、それぞれ工夫しながら運営していることが分かった。

○ 実践の成果として

- 世紀のイベントが国内で実施されるという機会を捉え、5・6年を中心に個人のテーマを設定し、課題解決学習を進めたことによりオリ・パラの意義や大会ホスト国としての役割、個々の種目の内容や歴史等に触れ、発表を通して共有することができた。

○ 講話を聞いて

- 知らないことがたくさんあった。
- 有名な選手と会うことができて良かった。
- 車椅子バスケのことについて知ることができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○ オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、啓発や学習活動を行った。
8 主な課題等	○ 今回はやむを得ずオンラインで選手との交流になってしまったが、オリンピック・パラリンピックに携わった方々（現役選手・大会運営者・これまで大会に出たことがある選手）と直接交流できれば、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じ取ることができると感じた。
9 来年度以降の実施予定	○ 5・6年生の発表を年度内に再度確認し合い、自分たちが追求してきた学びを新学年でどのように生かしていきたいのかを考えさせる。 ○ 障害者スポーツへの関心を深めた児童が多いことから、実際に体験を取り入れるなどして継続的な学習につなげていきたい。